

宇部市文化振興まちづくり審議会 第3回会議概要

日時：平成28年(2016年)8月18日(木) 15:00～16:30

場所：市役所 2階 第1会議室

出席者：委員9人(欠席1人)

事務局：庄賀総合政策部次長

青山文化・スポーツ振興課長、荒武文化・スポーツ振興課長補佐
酒井文化振興係長

議事

(1) 市民アンケート及びワークショップの結果について

市民アンケート及びワークショップの結果について概要を事務局より説明。

(会長) 市民アンケートは、サンプル数が1,000人を超えていることから、規模的には概ね妥当だろう。

この1年間で何かの文化芸術を鑑賞したかとの質問については、回答者の考えにも個人差があると思う。通りかかった画廊を覗くこともあるし、DVDを借りてきて映画を観ることもあろう。また、入場料を払ってコンサートに行くことなどもあり、様々な態様が考えられる。

県内の他の自治体の調査でも、今回のアンケートと同様に7～8割程度の人が文化芸術を鑑賞しているという結果がある。

皆が、入場料を払ってコンサートや演劇などに行くわけではなく、実態としては今回のアンケート結果と同様であった。

(委員) 市民大学の受講生として、このたびのワークショップに参加したが、会長の話のとおり参加者によって感じ方が違うと思った。

「パンや洋菓子のおいしいお店が多い」、「市民が志民大学等の活動を熱心に行っている」など、現状でも「既に実現」していると思っていたものが「理想」として挙がっていて、人によって捉え方が違

うというところが面白かった。

外から来た私などは、宇部市は実際にレベルが高いなと思うようなことでも、ずっとおられる人にはそうは考えておられないものも多いと感じた。

(会長) 住んでいると分からないところがあって、外から見ると分かることがある。

(委員) 私も他県から来て、宇部は好きなまちという思いはある。
ゆっくり時間が過ぎていることは素晴らしいところだと思った。
大都市で暮らしていると本当にきぜわしい。
中学生と小学生の子どもを連れて宇部に引っ越して来たのだが、子どもたちもゆっくりとしていることに驚いていた。
子どもの勉学面などは、本当に大丈夫なのかと不安にもなったが、
良いかどうかは別にして、今の方が暮らしやすいのは確か。

(会長) 文化芸術についてはどうか。宇部に文化が薫っていると感じたか。

(委員) 文化芸術、特に新たなことについては、1年遅れて情報・モノが入って来ると思った。東京から広島や福岡に行き、その1年後くらいにやって来る。
また、宇部の市街地を歩いたときに彫刻が街角にあるのはとても素敵だなと思った。
でも、それがどれほどの価値があるかがわからなかった。掲示があるのかもしれないが、これは一体何だろう、かわいいな、素敵だなと思って歩いて通り過ぎるだけなので。

(会長) 彫刻に掲示はありますか。
気になる彫刻があれば、誰が作ったのだろうかと思い、説明を探すことはよくあることだと思う。

(委員) 制作年と作家名と材質は表示されています。また、ときわ公園で新しく設置される彫刻は作者のコメントも入っている。

(会長) その方が分かりやすい。

(委員) 宇部の彫刻もそうだが、彫刻が好きな人、趣味にされている人などは、「コメントがない方が自由に楽しめる」と言われる。宇部に彫刻を置くのは、そういった人に楽しんでもらうのも良いが、それ程関心のない一般の市民と彫刻の文化とをいかにつなぎ合わせるかというところが目的であろう。

市民の感覚に寄せたものにしないと、ずっと伝わらないまま、「彫刻があるな」くらいのものになるのではないかと思う。

(会長) まちの中に彫刻があるのは良いことだと思う。しかし、じっくり観て、深く知りたいという人と雰囲気だけでいいという人がいるので難しい。現在のビジョンをつくる際「なぜ彫刻に題名や説明がないのか」という意見が出た。見る側としては説明があった方がいだろうと思っても、作家は「見てもらえば分かるんだ」と言われるので、作家が詳細な説明をしたくないのであれば、市はこういった理由（こういったことを表現しているから）で購入（設置）したということくらいで良いので、説明板を設置したらどうかという意見があった。

やはり説明がないとわからないと思う。

木で作ったバスは、わかりやすい。でも抽象的な彫刻に作者個人の思いで「未来」などと名前をつけられても普通の市民はわからない。

抽象彫刻が多いので、説明板をつけるくらいが私は良いと思う。

市民アンケートの自由意見を見て一番気になったのは、大きな美術館や大型の文化ホール、コンサートホールがあるといいなどの、もっと文化施設を作ってほしいという意見が多かったこと。

美術館があるから文化が高いということではないと思う。

もう少し日常なことから、多くの市民が文化に関心を持つことが大事なのではないか。ハコモノの建設より、未来に育っていく子ども達に日常的なところでお金をかける方が良いのではないか。

このほか、UBEビエンナーレに関するところでは、市民参加型に段々なってきたため、以前よりは市民から受け入れやすくなっているのではないかと思った。

(2) 次期ビジョンの個別事業案等について

個別事業の改訂案などを事務局より説明

(委員) アートという言葉は、日本語にしたら芸術という意味に捉えて良いのだろうか。

(会長) そこが、日本語の曖昧なところで、現状そのように考えて差し支えないが、少しB級的なものも入ったり、いかにも「芸術」というような敷居が高い概念以外のものも最近は包含するようになってきている。

(委員) 「食」のことも入れるとなると「アート」というと少しイメージが違ふなという思いがあり、「まちじゅう文化フェスタ」という日本語ではいけないか。

(会長) 「アートによるまちづくり」を宇部市が進めている状況なので、文言的にはこのままで良いのではないかと思うが・・・。

文化があつてその中に、「食」があつても良いと思う。

アートという言葉が広く一般に広まってくるのが1980年代くらいで、その際もアートの領域は曖昧で、今でもそれは続いている。

また、現代美術が出現したときに、「アート」という言葉に「翻訳」されてそれが現在に至っている。

(委員) 食文化も考えたい、故郷のもつ食文化の価値も考えたい、図書館や自然環境等の文化的価値も考えたいとなると、一般的に「アート」というと少し狭い範囲になる感覚はある。

(会長) この辺りの考えを説明すると、近年、日常生活のすべての現象をアートにしてしまうという風潮がある。

北川フラムさんが手がけた例など、全国各地の地域でそのようなアートイベントなどがあり、結果的に観光客が増えたり、定住する人が増えたりして、厳密な言葉の用法はあまりこだわらなくなってきている。

1960年代くらいに「限界芸術」という言葉があって「落書き」なのか「書道」なのか、その辺りの限界になっているのではないかと、いう中で「アート」として広い意味でとらえた。

これを「芸術」と読み替えると「まちなか芸術」になり、大分固くなってくる感じがする。

(委員) アートという言葉は子ども達との会話の中では、和製英語のような感じで「創りだす」という意味に思っている。

だから食もアートだという理解の仕方を子ども達はしている。

(会長) 学生の論文指導しているときも難しい。現代美術の定義はなかなかなくて曖昧模糊なところとして進んでいる。

なお、テーマ A は、様々な個別事業も関連つけられることを考えると必ずしも「まちじゅうアートフェスタ」という言葉にそのまましなくてもいいかもしれないとも思った。

(事務局) テーマ A の名称を「まちじゅうアートフェスタ」にしなくてもよいが、重点的な取組としては、この4つ（UBE ビエンナーレ、うべの里アートフェスタ、まちなかアート・フェスタ、芸術祭）にしたと考えている。

(委員) 「食」を、昨年「まちじゅうアートフェスタ」で大きく取り上げられたのはアートという概念で進めたのか。

それとも、一般的な意味の「食」を、「まちじゅうアートフェスタ」全体で取り組んだのか。

(事務局) 「まちじゅうアートフェスタ」での「食」は、イベントの中で「食べる」とことというのは、大きな集客の呼び水になるということで、「まちじゅうアートフェスタ」としては「食」を大事な要素にする

ことになった。

4つのそれぞれのイベントに食を絡めるし、期間中に食の大きなイベントを入れることも考えてきた。

「食」は現行ビジョンには入っておらず、前回会議で「食」も大事な文化ということで、「うべ元気ブランド」だけでなく伝統食なども含め、次期ビジョンでは取り入れようと考えている。

(会長) 集客を考えると「食」は大事。美味しいものが食べられる、イベントに関連のある美味しいものがつくられている、特別メニューの存在など、イベントに付随していて良いと思う。

「食を含めてのアート」という認識が市民にあればアートフェスタでもよいと思う。

(委員) まちじゅうアートフェスタは、隔年で秋の2か月程度の開催だが、それ以外の取り組みはどうか。

(事務局) その年のその時期にしか動いていないわけではなく、準備や仕掛けづくりなど、継続して色々な取り組みをしていかないといけない。その集大成がアートフェスタの2か月というイメージだ。

また、「まちじゅうアートフェスタ」に関連付けられる個別事業は、通年実施される事業になろうし、そのようにまとめていきたい。

(副会長) テーマAが「まちじゅうアートフェスタ」になり、4つの核イベントがそこに集約されたので、わかりやすくなったと思う。テーマの名称も大切だが分類的にはきれいに分かれ、実践していく立場としては分かりやすくていいと思った。

(会長) 皆さん、個別事業案の大枠もこれでよろしいですか。

それでは、事務局は重点事業に関連する個々の事業を、今回の提示された案をベースにして、関連付けして素案の作成に取り組んでください。

(事務局) 次期ビジョンは、現在の文化振興ビジョンをベースに作り、元々

56事業が、第2回の会議で示したとおり、38事業案となっている。

削った項目はビジョンには掲載されないが、市の事業としては残っている。

個別事業は、文化のビジョンなので、文化に寄せた形で整理したい。

本日配布した資料に記載している個別事業名は、市の「予算事業」の名称なので、その辺りも次のビジョンではわかりやすい表現にすることも庁内検討会で検討している。

(会長) 概ね皆さんの同意は得られたと考えてよろしいですか。

よろしければ、これまでの議論を踏まえて、本日提示された枠組みに従って整理していくということでお願いしたい。

(委員) 「まちじゅうアートフェスタ」の4つの核イベントは、それぞれ各課で担当して実施している。

重点アクション・プランになれば、これを更に、ブラッシュアップ・パワーアップして実施していこうということで、そうならばマンパワー的にはより充実されることが必要と思う。

今、UBE ビエンナーレはときわミュージアムが担当で学芸員も含めて職員皆がかなり努力して取り組んでいる。

また、都市計画部門が「まちなかアート・フェスタ」を実施されているが、職員もアートの専門家でなく、イベントに対してどうレベルの高いものを創っていくのか、日々試行錯誤していると思う。

(事務局) 各イベントは、それぞれの課で責任をもって実施しており、毎回、前回よりは良くしようとしている。

限りあるマンパワーの中で、アートによるまちづくりを支援してくれるボランティアなどと上手く協働しながらそれぞれが少しずつ進化していく。

また、「まちじゅうアートフェスタ」として、4つのイベントをつないでいくことで、人の流れが広がっていくことが期待できる。

今までビエンナーレしか見ていなかった人が「うべの里」や「まちなかアート・フェスタ」にも興味を持ち、行っている。

今後は、今回のアンケートでもわかるように、イベントについて「知っていたし参加した」という市民の割合は4割弱くらいなので、少しでも「知っていたし参加した」という方を増やすためにまちじゅうアートフェスタ実行委員会でこれから工夫していく必要がある。

アートフェスタとして相応しいイベントにするよう担当部署同士で連携をとり、事業効果をより高めていこうと考えている。

(委員) 2015年の「まちじゅうアートフェスタ実行委員会」に参加した時、委員は直接アートに関する知識を有しているわけでもなく、また職員も手探りで事業を進めていく感じであった。

2017年の準備となる今年は2回目であり、状況も改善されていると思うので、前回は検証し、それを踏まえて取り組んでいかないと、「まちじゅうアートフェスタ」を拡大・成功させていくことは大変なのではないかと思う。

(委員) 初歩的な質問ですが、うべの里とまちなかアート・フェスタと分けてあるがこれは開催する地域が違うということで解釈してもよいか。

(事務局) UBE ビエンナーレがときわ公園で開催されており、「アートのまち・うべ」は、そこだけではないということで「まちなかアート・フェスタ」を中心市街地で、「うべの里アートフェスタ」は、中山間地域で開催している。

「うべの里アートフェスタ」では、廃校を活用したり、野外彫刻を設置したり、アートの力で中山間地域を盛り上げようという取り組みを行った。

それぞれ始まった年や成り立ちも違うが、せっかく同時期に開催しているので、一つにまとめてPRし、市民をはじめ多くの人に来ていただくということで取り組んでいる。

(会長) 「アートによるまちづくり」の大義は、最終的には、地域を盛り上げ、これが宇部地区の人口増加・活性化につなげようというところ

ろがあったと思う。

私も「まちじゅうアートフェスタ」があるから、旧楠地区にも行ってみた。

アクションがないと人は動かないだろうという気がした。

旧吉部小に、お年寄りの顔の彫刻があるが、それもその一環か。

(事務局) 「うべの里アートフェスタ」の一環で設置した。

(会長) UBE ビエンナーレの彫刻も段々増えていくから、それをどのように市内に設置するか計画をたてることも大事である。

また、配置にあたっては、「配置の理念」より「まちおこし」という観点を最初に考えてもらいたい。

文化と経済が密接に関係していることを考えると、彫刻の配置の理念や方法はどちらでもいいので、まちが賑やかになったり、定住している人の所得が増えるようなことが必要。

私は他県の出身だが、久しぶりに故郷に戻ると、田舎でも色々な看板が出ていて「観光地」にしている。

それに比べたらまだ山口県人はおとなしい方と思う。

私の故郷では、かなり大げさなものや相当昔のものをひっぱり出してきて「観光地」っぽくしている。

2017年も、「まちじゅうアートフェスタ」を実施する予定なので、最初より次回のほうが関心や人が増えたりすれば、いいことだと思うし、もし減ったとしても、そこを気にするよりは、少しでも多くの「市民が関わる」ことができるようになれば良い。

また、文化創造財団が実施しているアートプロジェクトのマネージャーを養成するような講座などから、段々とアートをプロデュースできる市民が増えていけば、ボランティア活動や文化活動面のリーダーも増えてくるのではないかと長い目では思っている。

議事

(3) 市制施行 100 周年の取組について

委員の皆さんから事前にいただいた意見を説明。

(会長) 委員の皆さんからアイデアを出していただいたのでそれを基にして、アイデアのバリエーションが出てきたりして広がっていくと良いと思う。ありがとうございました。

ギネス記録になるようなことが何かできたらいいと思ったが。韓国の友人が、田舎のまちを活性化するには映画をつくることと言っていた。

韓国は映画が盛んで、南の方の小さなまちを舞台にして映画をつくったら非常に観光地になった。日本でそれだけの投資をして利益があるのかはわからないが。

これについては今日答えを出そうというわけではない。

次のビジョンの計画期間である 2021 年までの 5 年間はオリンピック・パラリンピック、市制施行 100 周年も入っているため新たな事業も考えなくてはいけない。

今のビジョンをスリムにして、それらを踏まえて新しいビジョンに反映していきたい。

市制施行 100 周年に関しては、委員の皆さんもさらにアイデアをお願いしたい。

(会長) 今後のスケジュールについて説明を。

(事務局) 本日が第 3 回審議会で、アンケートとワークショップの結果報告、ビジョンの素案の検討とあるが、本日、テーマと重点アクション・プラン、個別事業の内容について概ね了解をいただけたものと考えている。

このテーマと重点アクション・プランに沿って、今後は個別の事業等に関連付けしていく作業を行い、第 4 回については 9 月下旬か 10 月に、計画の骨子をお見せしてご意見を伺いたいと考えている。

最後の 5 回の審議会は 11 月を予定し、素案についてご検討いただき、その月末に審議会として第 2 次文化振興ビジョンの考えをまとめ、市長に答申したいと考えている。

その後、必要があれば市で修正した後、パブリックコメントとして市民意見を募集する予定である。

その後、庁内検討会で全体を整理した上で 2017 年 3 月に公表、4 月から新たなビジョンが動き出すというスケジュールとしている。

(会長) 実際に顔を合わせて行う審議会は 11 月の第 5 回で終わりになるが、意見は様々な方法で事務局に寄せていただきたい。

(3) その他

次回、第 4 回会議については、10 月 13 日(木) 15 時から開催することとした。